

さぬき市総合計画審議会 第1回会議要旨

1 日 時 平成23年7月28日(木) 9:30~11:12

2 場 所 さぬき市役所3階302会議室

3 出席者 [委員] 中島 江崎 杉 田村 小野
森安 渡辺 千田

[事務局] 大山市長

向井政策課長 山下主幹 山田係長

[傍聴] 1名

4 議 題 会議のすすめ方について

5 資 料 資料1 総合計画基本構想

総合計画基本計画

総合計画基本計画(変更概要)

資料2 さぬき市総合計画基本計画(後期)について(諮問)

資料3 さぬき市総合計画基本計画(後期)の策定について

資料4 さぬき市総合計画審議会(委員名簿)

資料5 市民アンケート結果

6 会議の内容は次のとおりである。

(1) 決定したこと

会議は、公開する。

平成23年7月28日から平成24年3月31日までを任期として、さぬき市総合計画審議会委員の委嘱状を交付した。

正副会長を次のとおり選任した。

会長 中島賢一郎

副会長 小野泰子

市長は、さぬき市総合計画審議会に「さぬき市総合計画基本計画(後期)について」を諮問した。

次回の会議は10月中下旬を予定する。

(2) 市長のあいさつ

総合計画は、平成16年度に10年後を見据えて、一定の項目、具体的な数値目標を定めて今日に至っている。

具体的に実現しているのかなということを考えてみると、なかなかそうならないところもある。

総合計画審議会が、総合計画に定めたこと、実行してきた実績を検証しながら、今後どのようにすればよいかについて、議論を深め、一つでも実現に向かって進めていくことができれば、次のステップに進むことができるのでありがたいと思

っている。

今年は、合併して10年目の節目にあたる年であり、10年前の「こういう地域をつくろう」と思ったことを考えてみたい。

3月11日に発生した東北大震災の自然の脅威を眼のあたりにして、私たちができることを、今一度考えるきっかけにしたい。

(3) 会長あいさつ

総合計画を読んでいると、「自分で立ちあがる」ということと「みんながどうやって協力するのか」ということを議論したいと感じた。

DREAM(夢)は、一晩過ぎると消えてしまうので、消えてしまわないようにVISION(目標)を皆さんと議論したい。

こういう会議は、「やらせ」になりがちであるので、そうならないように時にはシナリオから離れて求められた課題に向かっていくような進行を心掛けたい。

(4) 議題「会議の進め方について」に関する市の説明

さぬき市総合計画の概要について次のとおり説明した。

さぬき市総合計画は、基本構想と基本計画で構成されている。基本構想は、まちづくりの基本理念と実現を目指す基本目標と施策の大綱を示している。

基本計画は、各行政分野の具体的施策を示している。

基本構想の計画期間は、平成16年度から平成26年度までである。

基本計画(前期)の計画期間は、平成17年度から平成23年度までである。

基本計画(前期)の計画期間が終わることから平成24年度から平成26年度までの基本計画(後期)を今年度で策定する。

基本構想は、自治体財政を取り巻く環境が厳しさを増す中で、多様化する行政需要に対応するために、地方分権の受け皿としての問題意識と自立意識を常に市民と行政が共有し、産業基盤、都市経営基盤、市民自治の確立を目指して「自立する都市」を基本理念としている。

「産業基盤と財政基盤の確立を図る」「市民と行政との協働体制を築く」「人権を尊び心豊かな人づくり、子どもがたくましくのびのびと育つ、教育の充実による人づくり、個性豊かな人づくりを行う」「循環型社会の実現を目指し、自然の恵みや豊かさを実感できるようにする」といった4つの目標を掲げ、8つの基本施策を示し、基本計画で具体的取組を実施することとしている。

さぬき市総合計画基本計画(後期)の策定スケジュールを次のとおり説明した。総合計画審議会は、今後今回を含めて4回の会議を行って、答申のとりまとめを行う。

第2回会議は10月を予定し、前期計画の評価等について協議する。

第3回会議は、素案について協議し、その素案を12月にパブリックコメントに付して市民の意見を聞く。

さまざまな意見を集約して1月に第4回会議を開催して答申案のとりまとめをする。

後期計画は、3月の定例議会に付し、議会の審議を経て決定する。

(5) 委員の主な意見

【観光資源】

上がり3か寺があると友人に自慢したら、「すごい」と言われた。

【人づくり】

まちづくりは、人づくりだと思う。

イベントを行うと、若い人たちの発想や行動力に学ぶところが多い。

自然に囲まれて住みやすいが、半面、危機感が薄い。

いろんなイベントに参加するが、さぬき市のイベントに「おせったい」の心を感じたことがない。イベントの内容よりも、スタッフの気迫のようなもの、そういうところに感動して「また、来てみたい」というふうに思うものである。そういった人づくりを行うことが大切である。

イベントは、実施した後で、イベントに携わった人たちが、今後どのようにしたいのか、どのように感じているのかを表す催しが必要になってくる。

【市の職員】

市役所の窓口の対応に不愉快を感じたことがある。人の心が伝われば「また協力したい」「また来たい」ということになるけれど、不愉快な思いをすると「来たくない」と思うものではないか。

市の職員の基礎意識が弱いと思う。例えば市役所周辺の草ぬきが出来ていないように、自分たちの持ち場をよくしようとする意識がない。合併前の職員は、もう少し地域といっしょに、役場の美化でも出来ていたように思うが、合併後、そうした意識が遠くなったように感じている。

市の職員は、まちをよくしようとする意識、住民の一員としてイベントに参加しようとするが見られない。

市のカウンターに花を花瓶に飾っている。その花が枯れていることがあって、指摘すると、「それはボランティアの人が持って来ていただいている」という回答であって、自分たちでどうにかしようとするものではなかった。決まっていることに流されて、それ以外のことはやらないということになってしまっている。

ちょっとした気遣いを持ってもらいたい。

公共施設の調査というのがあって、同じ書類を7回書かされたことがあった。

役所関係の書類は、多くの枚数を書かなければいけない、また、同じ案件でも所

管する担当課がいくつも分かれて、それごとに書類が必要になる。それがわかっていたので、「必要な書類は全て集めてくれ」と依頼したら、それは出来ていた。言わないとやってもらえないというところがある。

防災情報をメール発信して、民生児童委員に市の情報が届くようになっている。総務課は、誰に着信できて、誰が受け取っていないか、わかるようになっている。受け取っていないのは、着信拒否、アドレスが誤っているということであるらしいのだが、そのままになっている。もう少し踏み込んで、こういう理由で市の情報を送れない状況になっていることを知らせてあげれば、改善できるのではないか。

【市民参画】

本会に将来を語る会に若い人がいないのは残念である。

本会は、若い人たちが参加するためには、休みの日の会議日程を設定する必要がある。

本会は、勤め人は出にくい時間帯があるので会議時間を考えてほしい。

本会は、日曜日の午前9時から午後6時まで真剣に議論するような内容である。総合計画の内容は広くて重要なことばかりであるので短時間で議論することは難しい。

本会においては、委員がその気になるような提案をしていただきたい。

休みの日になると女性が出にくいなど、会議時間の設定は難しいものがある。

全てを細部にわたり議論することは難しい。したがってテーマを絞って議論したい。

法律や条例で会議をしなければいけないようになっていて、規格どおりの会議というものがいっぱいある。規格どおりの会議では、委員の選び方から全て決まっている。そういうところに風穴を開けて、真に議論しなければいけないこと、それにふさわしい委員の選任というものを考えていく必要がある。

主催者が運営しやすい企画書というのは採用されやすい。いったい何のためにイベントを行うのかということを考えなければいけない。集客を考えると、主催者の意向ではなくて、参加する人たちを主体に考えなければいけない。

【市の identity (同一性・主体性)】

さぬき市は時代の先端を行っている。それは、高齢化が全国レベルと比較して先に進んでいる。そうしたところでは、高齢者が満足するようにまちづくりを進めるのか、若い人たちが満足するまちづくりを進めるのかということがあって、さまざまな人たちが住んでいるので、どのように共存できるまちづくりをするのかということが大切になる。

さぬき市は5つの町が合併して10年を迎える。それぞれの町がいいところを残しながら今日に至っている。「合併前はよかった」という声をよく聞くが、「何と

かせないかん」という声も聞く。文化祭やイベントをそれぞれの町の考えで行っているので、全体を見渡しての考え方も必要ではないか。

さぬき市の特徴であった農林水産業の後継者が減って、特に中間山地では耕作放棄地が増えている。

イベントは、一つの町で物事を見ていたけれども、合併後は、どこで行うのがふさわしいのか、どうすれば人が多く参加できるのか、そういったことを考えてまちづくりを行うことが大切だと思う。